

平成18年度からの大学入試センター試験の 出題教科・科目等について－最終まとめ－

平成15年6月4日
独立行政法人大学入試センター

新しい高等学校学習指導要領（平成11年3月文部省告示。以下「新指導要領」という。）に即した平成18年度からの大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の出題教科・科目や出題方法等については、平成14年3月に審議状況を「中間まとめ」として明らかにし、各方面の意見を求めたところ、大学、高等学校、関係団体等から多くの貴重な意見が寄せられた。

独立行政法人大学入試センター（以下「当センター」という。）では、これらの意見や高等学校における教育課程の編成状況及び教科書を参考としながら、更に詳細な検討を行った結果、以下のとおり最終的な結論を得たので、ここに公表するものである。

センター試験は高等学校教育と大学教育の接点にあり、新指導要領を受けて多様に展開する高等学校教育と変革期にある大学教育の双方を有機的に接続させて対応する必要がある。このことから、出題教科・科目とその範囲の設定に当たっては、高等学校教育に及ぼす影響について十分に配慮しつつ、同時に、各大学・学部の多様な入学者選抜に応ずる資料として十分な機能を果たすことができるよう配慮した。そこで、「中間まとめ」で出題科目として予定した「数学基礎」、「理科基礎」及び出題の対象とする方向で更に検討することとした普通教科・情報については、高等学校における教育の実態等を十分に踏まえる必要があるため、出題の可能性について引き続き検討することとし、平成18年度から当分の間は出題の対象としないこととした。

その結果、具体的には6教科28科目を出題することとした。

各大学において、センター試験の利用の方法等を決定するに当たっては、この出題教科・科目の設定の趣旨に十分配慮し、当該大学・学部の目的、特色や専門分野等の特性に応じて科目指定等を行う場合にあっても、新指導要領の下における各高等学校の教育課程や生徒の選択する履修科目の状況を踏まえ、適切に対応することが望まれる。

今後、当センターでは、問題作成等に関する具体的な事項についての検討を行い、平成18年度からのセンター試験の実施に万全を期す所存であるので、関係各位のより一層の御支援を願う次第である。

I 基本的方針

平成18年度からのセンター試験は、①必履修教科の国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語の6教科を出題の対象とし、それぞれの教科の必履修科目及び選択科目の中から出題することとする。②必履修教科の保健体育、芸術及び家庭の3教科については、これまでどおり出題の対象としない。③新指導要領で、新たに設置された普通教科・情報については、平成18年度から当分の間は出題の対象としない。④専門教育を主とする学科における履修科目の出題について配慮することを基本的方針とする。

(説 明)

- (1) 保健体育、芸術及び家庭の3教科については、必履修教科ではあるが、学習内容が体験的であったり実技的要素が多いことから、出題の対象としない。
- (2) 必履修教科として新たに設置された普通教科・情報を平成18年度から当分の間は出題の対象としないこととしたため、専門教育を主とする学科の履修者への配慮から、現行と同様に数学のグループ②における選択科目として『情報関係基礎』を並置出題する。

(注記) 「 」は新指導要領による科目を、『 』は二つの科目を総合した科目又は二つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ科目を、それぞれセンター試験の出題科目とすることを示す。

2 各教科の出題科目等

国 語

出題科目は『国語』1科目とし、「国語総合」に「国語表現Ⅰ」を加えた出題範囲とする。

(説 明)

新指導要領では、6科目（「国語表現Ⅰ」、「国語表現Ⅱ」、「国語総合」、「現代文」、「古典」及び「古典講読」）が設定されており、これらのうち、「国語表現Ⅰ」又は「国語総合」のいずれか一方を選択して必修することとなっている。

「国語表現Ⅰ」の内容は、「A話すこと・聞くこと」及び「B書くこと」の領域を中心として構成されていることから、独立した科目として出題することは困難である。

したがって、「国語総合」を基本として、さらに「国語表現Ⅰ」で重視する「A話すこと・聞くこと」及び「B書くこと」の領域の内容を加えて出題する。

地理歴史

出題科目は「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」の6科目とし、1科目を選択解答させる。

(説 明)

新指導要領では、6科目（「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」）が設定されており、これらのうち、「世界史A」及び「世界史B」のうちから1科目並びに「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」のうちから1科目の計2科目を選択して必修することとなっている。

したがって、すべての科目を出題する。

公 民

出題科目は「現代社会」、「倫理」及び「政治・経済」の3科目とし、1科目を選択解答させる。

(説 明)

新指導要領では、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」のいずれか一方を選択して必修することとなっている。

センター試験においては、科目の性格と目標に即して選択の幅を広げることを考慮して、「倫理」及び「政治・経済」をそれぞれ独立させて出題する。

したがって、すべての科目を出題する。

出題科目は「数学Ⅰ」，『数学Ⅰ・数学A』，「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』の4科目とし，次のように2グループに分け，それぞれのグループにおいて，1科目を選択解答させる。

グループ①：「数学Ⅰ」及び『数学Ⅰ・数学A』

グループ②：「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』

(1) 『数学Ⅰ・数学A』は，「数学Ⅰ」及び「数学A」を総合して出題範囲とする。

(2) 『数学Ⅱ・数学B』は，「数学Ⅱ」及び「数学B」を総合して出題範囲とする。

ただし，「数学B」については，数列，ベクトル，統計とコンピュータ，数値計算とコンピュータの4項目から，2項目以上を学習した者に対応した出題とし，問題を選択解答させる。

(説 明)

新指導要領では，7科目（「数学基礎」，「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」及び「数学C」）が設定され，これらのうち，「数学基礎」又は「数学Ⅰ」のいずれか一方を選択して必修修することとなっている。

しかしながら，「数学基礎」については，具体的な内容が新指導要領では大綱的に示されており，各学校において，生徒の特性等や履修歴などを踏まえて，適切な教材を取り上げ，指導と評価を工夫することが求められている。このため，高等学校における教育の実態等が不明な段階で当該科目を出題した場合，センター試験が科目本来の設定趣旨を歪めるおそれや高等学校における教育内容に大きな影響を与える可能性があり，高等学校での実施状況を踏まえた出題の在り方を検討する必要がある。

よって，「数学基礎」については，高等学校における教育の実態等を踏まえながら，出題の可能性について引き続き検討することとし，平成18年度から当分の間は「数学Ⅰ」を出題する。

また，大学・学部によっては数学に関するより広範な素養が求められることから，『数学Ⅰ・数学A』，「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』を出題する。

理 科

出題科目は「理科総合A」，「理科総合B」，「物理Ⅰ」，「化学Ⅰ」，「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」の6科目とし，次のように3グループに分け，それぞれのグループにおいて，1科目を選択解答させる。

グループ①：「物理Ⅰ」，「地学Ⅰ」

グループ②：「理科総合A」，「化学Ⅰ」

グループ③：「理科総合B」，「生物Ⅰ」

(説 明)

新指導要領では，11科目（「理科基礎」，「理科総合A」，「理科総合B」，「物理Ⅰ」，「物理Ⅱ」，「化学Ⅰ」，「化学Ⅱ」，「生物Ⅰ」，「生物Ⅱ」，「地学Ⅰ」及び「地学Ⅱ」）が設定されている。これらのうち，「理科基礎」，「理科総合A」，「理科総合B」，「物理Ⅰ」，「化学Ⅰ」，「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」の7科目のうちから2科目を選択して必修することとなっており，その際，「理科基礎」，「理科総合A」及び「理科総合B」のうちから少なくとも1科目以上を含むものとしている。

しかしながら，「理科基礎」については，新指導要領において，各学校で生徒の実態等に応じて内容を選択して取り扱うこととされている。このため，高等学校における教育の実態等が不明な段階で当該科目を出題した場合，センター試験が科目本来の設定趣旨を歪めるおそれや高等学校における教育内容に大きな影響を与える可能性があり，高等学校での実施状況を踏まえた出題の在り方を検討する必要がある。

よって，「理科基礎」については，高等学校における教育の実態等を踏まえながら出題の可能性について引き続き検討することとし，平成18年度から当分の間は「理科総合A」，「理科総合B」，「物理Ⅰ」，「化学Ⅰ」，「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」の6科目を出題する。

なお，グループ①，グループ②及びグループ③の科目配置は，受験者の試験科目の選択状況等を考慮した。

外国語

出題科目は『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の5科目とし、1科目を選択解答させる。

『英語』は、「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を含むものとする。

ここでいう共通する事項とは、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通して使われる言語材料等を指し、その出題内容は、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」のうち、いずれか一方を学習していれば対応できるものとする。

『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』については、『英語』に準ずる。
なお、外国語リスニングテストについては、平成18年度から当分の間は『英語』のみ実施する。

(説 明)

外国語は、新指導要領において、国際化の進展に対応し、外国語を使って日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような実践的なコミュニケーション能力を身に付けることが一層重要であるという認識に立って必修教科となった。

この趣旨を生かすため、『英語』の出題範囲は、「オーラル・コミュニケーションⅠ」，「英語Ⅰ」を中心として、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を加えるものとする。

また、実践的なコミュニケーション能力の育成が重要視されていることから、外国語リスニングテストを実施する。ただし、平成18年度から当分の間は、『英語』のみとする。

なお、『英語』以外の外国語については、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』を『英語』の出題範囲に準じて出題する。

3 専門教育に関する科目の出題

出題科目は「工業数理基礎」，『簿記・会計』及び『情報関係基礎』の3科目とし，数学のグループ②の「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』と並置出題する。

『簿記・会計』は，「簿記」及び「会計」を総合して出題範囲とし，「会計」については，会計の基礎，貸借対照表，損益計算書，財務諸表の活用の4項目の内容のうち，会計の基礎を出題する。

また，『情報関係基礎』は，農業，工業，商業，水産，家庭，看護，情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。

(参 考) 情報に関する基礎的科目

- 農業科：「農業情報処理」
- 工業科：「情報技術基礎」
- 商業科：「情報処理」
- 水産科：「水産情報技術」
- 家庭科：「家庭情報処理」
- 看護科：「看護情報処理」
- 情報科：「情報産業と社会」
- 福祉科：「福祉情報処理」

(説 明)

新指導要領では，現行の「工業数理」の内容を基礎的・基本的な内容に厳選し，「工業数理基礎」と名称が改められ，「簿記」については，現行の「簿記」の内容の一部を「会計」に移行するなどの改善が図られた。また，情報に関する基礎的な科目として，情報科に「情報産業と社会」，福祉科に「福祉情報処理」が設定された。

現行のセンター試験では，専門教育を主とする学科等における専門教育に関する科目の出題について，「工業数理」，「簿記」，『情報関係基礎』の3科目を「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』と並べた選択科目として取り扱ってきたことを勘案し，「工業数理基礎」，『簿記・会計』及び『情報関係基礎』を数学のグループ②における選択科目として並置出題する。

4 旧教育課程を履修した者に対する措置

旧教育課程（平成元年3月文部省告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程）を履修した高等学校卒業者等に対しては、出題する教科・科目の内容に応じて配慮を行うものとし、平成18年度センター試験においてその措置をとる。

5 試験時間及び配点等

- (1) 各教科・科目の試験時間及び配点については、これまでのセンター試験との継続性を勘案し、現行に準ずる。
- (2) 外国語リスニングテスト（『英語』）の実施時間帯については、平成18年度から当分の間は、従来の外国語試験とは別枠で実施する。

なお、成績評価については、リスニングテストの特性を考慮したものとし、試験時間を含めた詳細については、今後更に検討し、決定次第、速やかに公表する。